

川端龍子

かわぶみ

日本畫家。

明治十八年六月六日和歌山縣生れ。昭和

四十二年四月十日没（二八五—一九六）。

本名昇太郎。洋畫を學ぶ。『國

民新聞』等小插繪を描く。大正二年アメリカ遊學。歸國後日本畫の轉

じ、むせいめい无聲會會員を経て四年珊瑚會結成。六年日本美術院同人も、昭和

三年脱退して翌年青龍社を創設。俳人川端茅舎の兄で、自らも俳句を

能くし、二十二年俳誌『ホトトギス』同人。三十四年文化勳章受章。

著書、東草水作『夏やみ文』（畫、明治四十四年八月十日青葉堂刊）

本社）、『漫畫東京日記』（明治四十四年七月十五日新潮社）、『畫

室の解放』（大正十二年四月五日中央美術社）、『漫畫明治大正史』（合

著・代田周一編、昭和二年八月五日中央美術社『現代漫畫大觀』（

『大陸戰史一画と文』（合著・陸軍省報道部編、昭和十六年二月十日

陸軍畫報社）、『わが画生活』（横川毅一郎編、昭和二十六年十一月

二十五年）日本雄辯會講談社）等。

文獻、木村重夫著『川端龍子論』（昭和十七年十月十日塔影社）、川

端龍子著『父の画室の濟び』（昭和二十七年六月六日新潮社）等。